

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01267

研究課題名(和文) 原典資料に基づく、キリシタン語学の集大成

研究課題名(英文) integration of the linguistic studies of the Early Christian Mission presses in Japan

研究代表者

豊島 正之 (TOYOSHIMA, MASAYUKI)

上智大学・文学部・教授

研究者番号：10180192

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,900,000円

研究成果の概要(和文)：1)キリシタン文献の典拠原典の比定を進めた。2)初の日本語文法記述「天草版ラテン文典」(1594)の原典であるアルバレス文典「適用版」を、翻刻の上データベース化し、先行文法書との対比を進めた。3)ロドリゲス「日本大文典」の新品詞artigo・particulaの追加の意義を明らかにした。4)辞書論として、キリシタン版付載の全ての対訳語彙集を電子化・データベース化し、迅速、且つ遺漏の無い検索を可能とした上で、「日葡辞書」の原型となる語彙集(現佚)の存在を論証した。5)文字論として、キリシタン版国字本(漢字仮名交じり本)の全用例は、本研究により電子化が完了し、表記と音訓との対応の整理も完了した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「キリシタン語学」は、16世紀後半から17世紀初頭、日本で布教中のキリスト教宣教会のイエズス会が、編纂した文法書・辞書・教義書・修徳書・典礼書などの「キリシタン文献」の言語学的研究である。「キリシタン文献」には、典拠と想定される原典がそれぞれ存在し、それらの参照が有用である事は、50年以上前から知られていたが、典拠原典参照に基づく研究統合は、本研究が初めて完遂した。本研究は、典拠原本を直接参照し、その文字列翻刻データを作成して、そこからデータベースを構築し、迅速・遺漏なき検索に基づいた立論を行なった。本邦での学術賞の受賞、海外からの招待講演依頼等、既に国内・国際的な評価を得るに至っている。

研究成果の概要(英文)：European sources of the Jesuit Early Christian Mission Press in Japan have been explored extensively. The study of the versions of "ars maior" / "ars minor" by the Jesuit Manoel Alvares, which are claimed (in its preface) to be the direct sources of the very first Japanese grammatical description "De institutione grammatica conjugationibus accessit interpretatio japonica" (1594, Amacusa, Japan), and the creation of databases thereupon, enabled fundamental progress in the evaluation of the subsequent Jesuit Japanese grammars, such as the "Arte da lingua de Japan" (1604-1608, Nagasaki, Japan) by the Jesuit priest resident in Japan Joam Rodrigues. The Rodrigues' usage of the parts of speech "artigo" and "particula", "the non-existence of the Japanese optative" have been clarified based on his sources, for the first time, for example. Lexical and graphemic (typographical) studies also have been extensively conducted over all of the extant Jesuit Early Christian Mission press publications.

研究分野：言語学史、国語学、キリシタン語学、キリシタン史

キーワード：キリシタン語学 キリシタン版 日葡辞書 ロドリゲス日本文典 宣教に伴う言語学 Missionary Linguistics Manoel Alvares Manuel Barreto

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「キリシタン語学」は、16世紀後半から17世紀初頭、キリスト教宣教会のイエズス会が、日本での布教に伴い、日本語・日本文化研究の一環として編纂した文法書・辞書・教義書・修徳書・典礼書などの「キリシタン文献」を、文法学・辞書学・表記論・音韻論等の語学的観点から研究する称である。

キリシタン文献は、「規範的」とであると信じられ、それに従って日本語史資料としての評価もなされ、そのため、その高い規範性が、却って資料性を乏しくすると評価さえ受ける事があった。キリシタン語学は、既に、イエズス会のキリシタン文献に見える情報を所与のもの(データ)として受け取るだけでなく、何故その情報がその形でそこにあるのか、キリシタン文献が敢えてその形で情報を記述した背景は何かを探究し、それに基づいてデータを再評価する段階にある。

キリシタン語学に、各キリシタン文献の典拠と想定される原典がそれぞれ存在し、それらの参照が有用である事は、土井忠生・亀井孝らの50年以上前の研究の時代から知られていた。しかし、典拠原典は、15~17世紀の版本・写本であって、その被閲・解読も容易ではなく、原典参照に基づく研究は、進んでいなかった。

キリシタン文献の「規範性」は、データとして見えている用例だけではなく、その典拠原典からの変容(ときには削除)によって見えなくなった部分をも資料として、その制作段階から検討する事で、初めて「規範性」として論じ得るものである。

代表者らの過年度の研究によって、イエズス会のキリシタン文献の典拠原典の探索は大いに進み、文法書・辞書・修徳書など、それぞれの文献の制作状況も解明された点が少なくなく、それは、豊島正之編(2013)「キリシタンと出版」(八木書店、第35回「日本出版学会賞」(2013年度)受賞)に一部を掲載したが、典拠原典の探索に基づく、キリシタン文献への影響の研究成果を統合して、キリシタン語学の全体像を描き出すには、至っていない。

2. 研究の目的

本研究は、文法書・辞書を中心に、ラテン語による修徳書・典礼書を含むキリシタン文献の全てを、同時代の典拠原典に遡及し、キリシタン文献のそれぞれの典拠に基づく精細な語学的解読結果を得て、一貫した視点から、典拠原典に拠る解読の方法論を総合して、キリシタン語学の諸分野を統合する事を目指した。日本語・言語学史研究の研究資源としてのキリシタン文献の活用を資する事を目標とした。又、別途研究中のキリシタン文献の文字論とも統合して、キリシタン語学の典拠研究と研究手法を集大成する事を目的とした。

3. 研究の方法

1) キリシタン文献の典拠原典の比定

キリシタン文献のうち、翻訳・翻案により成ったものは、その解読には底本としての典拠原典の参照が必須である。このため、辞書はCalepinus諸版(特に1580年Lyon版)や当時のイベリア半島辞書類(Cardoso 1562版、Barbosa 1611版など)、文法書であれば原典Alvares諸版(下に詳述)、聖人伝であれば当時のFlos sanctorum(聖人伝集成、多数あるがDiogo Rosario 1585版など)、又、原著の著者名が明記された修徳書(Luis de Granadaの諸版本、Gaspere Loarteの諸版本)のように、典拠原典の探索、典拠である事の論証、及びその本文対照による翻案の実態研究を、ポルトガル・スペイン・メキシコの研究協力者の援助を得つつ行なった。

解読用リソースとして、同時代のラテン語対訳辞書、ラテン文法、及びラテン文法に基づく他言語文法(中南米語文法を含む)の電子テキスト化を進め、海外図書館の原典の原本を参照した上で、データベース化して、この解読用リソースとして活用した。

2)キリシタン版で、日本語文法を論じた初の文典「天草版ラテン文典」(1594)の原典 *ars maior/ars minor* 諸本の、電子化に基づく研究

キリシタン版「天草版ラテン文典」(1594)は、Manuel Alvaresの *De institutione grammatica libri tres*(1572リスボン初版、以下「アルバレス文典」)の日本語適用版(*adaptatio*)である。アルバレス文典は、イエズス会が、世界中どこでもラテン語教授に使える様にとの意図でAlvaresに編纂を命じたもので、後に、イエズス会は、アルバレス文典を標準ラテン語文典として、他の文典によるラテン語教授を禁じた。(イエズス会教憲、*ratio atque institutio studiorum S.J.*、第61条、1591)。この教憲は、単一版の使用を強制したのではなく、寧ろ布教各地で、現地語に適応(*adaptare*)させた適用版(*adaptatio*)を自由にとって良いとしており、世界各国で、適用版が作られる。

適用版は、元来のアルバレス文典(「大文典」*ars maior*)から、教授者用の注釈 *scholia* を除いて紙数を減じ、判型を *quarto*(4折判)から *octavo*(8折判)に小さくして、より安価にした「小文典」*ars minor* に基づくものである。「より安価」は、*ars minor* の編纂意図の一つとして、*ars minor* の序文にも明記されている。

この各国語「適用版」(スペイン、イタリア、フランス、ドイツ、中南米)の画像を収集し

て、一部は翻刻してデータベース化した上で、ars maior と ars minor の差、他の先行・同時代文法書である Nebrija、Despauterius、Cardoso、Aldus Manutius 等の、記事の出入りを調査した。

3) キリシタン版辞書論の深化

「ラポ日対訳辞書」(1595)、「日ポ辞書」(1603)は、過年度までにデータベース化済であったが、これに加えて、初期キリシタン版「サントスの御作業」(1591)以降の、日本語ローマ字書きキリシタン版に付載される「ことばの和らげ」を電子化して、それに続く「日ポ辞書」との語彙の出入り、語釈手法の差等の検討を行なった。併せて、天草版「平家物語」「イソポ物語」「金句集」に合綴された、Manoel Barreto の日ポ対訳語彙集「難語句解」自筆写本も電子化して、これらの版本語彙集との対比を行なった。これに拠って、キリシタン文献の全ての対訳語彙集が、電子化・データベース化され、迅速、且つ遺漏の無い検索が可能となった。

4) キリシタン版文字論との統合

漢字仮名混じり表記の「国字本」キリシタン版類については、代表者(豊島)が、勤務先の学内経費(上智大学学術研究特別推進費重点領域研究)にて「キリシタン版文字論の集大成」を令和3年度に完了し、国字本の全活字・全用例を網羅したデータベースは構築済みである。本研究は、海外図書館の原本での確認を行ない、国字本だけでなくキリシタン版のラテン文字(ローマ字)本をも包含した「キリシタン版文字論」として発展させ、この成果を得て、キリシタン語学での「文字の訓」概念を、一貫した視点から論ずる事が出来る様になった。

4. 研究成果

研究代表者(豊島)が、令和5年(2022年)7月初頭に、不慮の脳卒中を発症して、10月上旬まで3箇月強入院した。その後も後遺症とリハビリが続いたため、同年9月以降に予定していた海外の国際会議での成果発表は行えなかった。海外渡航調査等は、研究分担者・協力者が代行した。

研究期間終りの、国際シンポジウムの開催、「キリシタン語学大全」の公刊をも目標としていたが、この不慮の3箇月強の入院と後遺症のために、全て実現出来なかった事を、深く遺憾とする。

1)キリシタン版で、日本語文法を論じた初の文典「天草版ラテン文典」(1594)の原典 ars maior/ars minor 諸本に基づく研究

Manoel Alaveres のラテン語文法(アルバレス文典)の各国語「適用版」(adaptatio)に拠る研究手法に就ては、上の「3. 研究の方法」2)に述べた処である。

これらの「適用版」との対照に拠って、アルバレス文典は、接続法 conjunctivus・希求法 optativus の、イベリア半島言語に特化した扱いが、際立った特徴である事を、初めて明らかにした。このアルバレス文典の希求法の特立が、日本語の希求表現に関する、「日本語には、過去への希求は無く、日本語の過去への希求は全て後悔である」というキリシタン語学独自の記述の源流であり、これは、後のロドリゲス「日本大文典」(1604-1608)にも引き継がれている事を、初めて指摘した。

これを論じた論著:黒川茉莉・豊島正之(2022年2月)キリシタン時代の文法書(岸本恵実・白井純編「キリシタン語学入門」p.21-26、八木書店)

TOYOSHIMA,Masayuki(2023 印刷中) Tradition and innovations in the Jesuit Japanese grammars(Rolf Kemmler(eds.) “450 anos De institvtione grammatica libri tres”, Nodus Publikationen, 2023)

KUROKAWA,Mari(2023 印刷中) Adaptation and Translations to Japanese of Álvares' Latin Grammar(Rolf Kemmler(eds.) “450 anos De institvtione grammatica libri tres”, Nodus Publikationen, 2023)

これを論じた国際会議招待発表:黒川茉莉(2022年9月1日)Pray and Wish in Jesuit Japanese Grammars、International Symposium "Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe", Leipzig 大学・オンライン参加

2)ロドリゲス「日本大文典」の構成に対する、アルバレス文典の影響

アルバレス文典の、ロドリゲス「日本大文典」に対する影響は、既に土井忠生(1933)が、両者に共通する用例等に基づき指摘している処である。この研究では、ロドリゲス文典が、動詞活用を存在動詞(ゴザル)から解き始める点を、アルバレス文典が、ラテン語動詞活用を、存在動詞 sum から解き始める事を、その理由として、初めて指摘した。アルバレス文典は、ラテン語の受動態完了過去が、amatus sum の様に、存在動詞 sum を要求する事から、動詞活用論の冒頭に存在動詞 sum を置く。これは、当時としては新機軸で、ラテン語としては、それなりに意味の通る事であるが、日本語には何の関係も無い事であるのに、ロドリゲスが、動詞活用を存在動詞(ゴザル)から始めるのは、アルバレス文典の影響力の強さ故である。

これを論じた論著:黒川茉莉・豊島正之(2022年2月)キリシタン時代の文法書(岸本恵実・白井純編「キリシタン語学入門」p.21-26、八木書店)

3)新品詞 artigo と particula

ロドリゲス「日本大文典」(1604-1608)は、通常の8品詞に、artigo と particula の2品詞を新たに追加する。

当時の欧州文典は、8品詞を堅持する。例えば、Nebrija(1492)は、ラテン伝統文法に無い

artículo(冠詞)を追加するために、interjección(間投詞)を、adverbio(副詞)に格下げしてまで、「8」を堅持しようとしている。

ロドリゲスが敢えて2品詞を追加したのは、日本語と(文法書の記述言語である)当時のポルトガル語に共通の、次の二つの現象が関与している。

①格表示機能。ポルトガル語では、前置詞後冠詞が縮約して、主格 *o*/与格 *ao*/奪格 *do* の様に、冠詞が格変化(曲用)する様に見える。(実際、当時のポルトガル語文法では、これを「曲用」*declinação* と呼んでいる)。当時のポ語文法は、ポ語の冠詞に格表示機能を認めていた事になる。これが、日本語の格助詞を「冠詞」(artigo)として記述する事を容易にした。

②補文の補文標識(complementizer)。当時のポルトガル語の関係節では、補文標識「*o*」が、たまたま定冠詞 (artigo) の「*o*」と全く同形である。中世日本語の(準体助詞を要しない)「準体」も、動詞連体形に、直ちに格助詞が接続する事で表現される。例: *Eu sei o que ele disse.* [I know what he said]. *o* が定冠詞と同形の補文標識で先行詞、*que* が関係詞。日本語「彼の言った△ヲ知った」。△の処には、現代語であれば、準体助詞「ノ」が要求されるが、中世日本語では、不要。

これを論じた論著:黒川茉莉(2020年9月)ロドリゲス『日本大文典』の品詞 *particula* と *artigo* に就いて(訓点語と訓点資料、145、pp.81-63)

4)辞書論

ローマ字書きキリシタン版付載の「言葉の和らげ」に、「日ポ辞書」の原型となる語彙集(現佚)の存在が推定出来る。

初期キリシタン版「サントスの御作業」(1591)の「言葉の和らげ」には、それ以前に成立した *Manoel Barreto* 自筆「難語句解」と共通する記述があり、しかも、それは、後年のキリシタン版「日ポ辞書」(1603)にも受け継がれている。これは、キリシタン版の印刷開始以前に成立していたと伝える、極初期日本語ポ語対訳語彙集(現佚)の伝存と推定される。

これを論じた論著:中野遙(2023年2月)「キリシタン版『日葡辞書』とキリシタン版『サントスの御作業の内抜書』「言葉の和らげ」について」(上智大学国文学論集 56、pp.80-61)

5)文字論

キリシタン版国字本(漢字仮名交じり本)の全用例は、本研究により電子化が完了し、表記と音訓との対応の整理も完了した。この結果、イエズス会が、本邦製金属活字で印刷した字書「落葉集」(1598)に見える音訓が、キリシタン国字本に常用される音訓を概ねカバーしているが、漢字→音訓の面では整理された「定訓」を立てているが、音訓→漢字という表記規範の面では、同訓異表記を制限する方向性が無い事、その音訓は当時の古本節用集・和玉篇類にも多く見え、当時常用の音訓である事、等を明らかにした。

これを論じた論著:白井純(2022年3月)キリシタン版『落葉集』所収漢字と和訓の常用性(訓点語と訓点資料 148、pp.86-69)

研究成果の公刊

この研究に関する査読論文の公刊は、国外の査読誌からの招待論文も含めて、極めて盛んに行なった。研究期間を終えた後に、「キリシタン語学大全」の公刊を、目標としていたが、上述の研究代表者の不慮の発症と入院のため、具体的な出版計画に至らなかった事を遺憾とする。

しかし、令和5年2月には、研究分担者(岸本・白井)が編者となって「キリシタン語学入門」(八木書店)を公刊し、本研究の代表者・分担者・協力者は、全員がこれに寄稿して、最新のキリシタン語学の水準を世に示す事が出来た。

著書出版では、研究協力者の中野遙が、新村出記念財団より出版助成金(令和2年度)を得て博士論文に基づく著書「日ポ辞書の解明」(八木書店)を刊行した。

受賞・招聘

研究組織全員が、2021年3月の、ブラジル大学(ブラジル)での国際会議「XIII Congresso internacional de Estudos japoneses no Brasil」に招待され、オンラインで発表を行ない、会議成果論文集に寄稿した。

研究代表者(豊島)が、アルバレス文典初版(1572)刊行450周年記念の国際会議に発表を招待された。上述の不慮の発症のために、参加を見送ったのは残念であるが、記念論文集への寄稿へも招待され、論文は現在印刷中である。

研究協力者の黒川茉莉は、アルバレス文典の希求法に関して、ライプツィヒ大学での国際シンポジウムに招待され、オンラインで発表し、シンポジウム成果論文集への寄稿へも招待され、論文は、現在印刷中である。

黒川茉莉の研究成果に対しては、新村出研究奨励賞(2023年度)が授与された。

この様に、この研究に対する、学界での表彰・国際的な認知は着実に進んだ。

オンラインリソース

次の4つを継続して維持し、引き続き、国内外からのアクセスが少なくなかった。

外部からの利用だけでなく、研究組織内で、これらのリソースのソースファイルを共有して、研究論文・研究発表に活用した。

<https://joao-roiz.jp/LGR/>

ラテン語対訳語彙集

<https://joao-roiz.jp/LGRI/> イベリア半島のラテン文法

<https://joao-roiz.jp/LGRM/> イベリア半島正書法・文法書

<https://joao-roiz.jp/JPDICT/> 近代日本語辞書・字書(科研費 21HP8004 の成果の一部)

最後の JPDICT は、キリシタン文献辞書類が取り上げた語彙と、近代日本辞書・字書の語彙との対照を主目的として作成したものだが、これに基づく査読論文・招待講演・招待発表に基づく査読論文を公刊した。

イベリア半島の文献に就ては、スペイン・ポルトガル・ブラジル等で、類似のデータベースも公開される様になったが、正規表現 (**regular expression**) の様な検索機能を持つデータベースで、この規模のものは他に無く、既に国際的にも重要視されるリソースとなっている。

キリシタン版の漢字仮名交じり「国字本」の、全活字・全用例を網羅したデータベースは既に構築済みであるが、原本所蔵者の中にオンラインでの一般提供に制限を設ける機関があるため、非公開としている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 TOYOSHIMA, Masayuki	4. 巻 1
2. 論文標題 When a "round-trip" fails in dictionaries	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Multiplas faces de pesquisa japonesa internacional	6. 最初と最後の頁 223, 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之	4. 巻 1
2. 論文標題 キリシタン文献	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 藤本幸夫編「書物・印刷・本屋 --日中韓をめぐる本の文化史」	6. 最初と最後の頁 339, 360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之	4. 巻 1
2. 論文標題 日本大文典・日本小文典 --通事ロドリゲスの文法書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリシタン語学入門	6. 最初と最後の頁 56, 66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之, 折井善果	4. 巻 1
2. 論文標題 ポルトガル語・スペイン語・ラテン語の調べ方	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリシタン語学入門	6. 最初と最後の頁 141, 146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岸本恵実	4. 巻 40
2. 論文標題 『日葡辞書』における動物に関する記述 馬を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国語語彙史の研究	6. 最初と最後の頁 45,61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KISHIMOTO, Emi	4. 巻 6
2. 論文標題 Some remarks on Alexandre de Rhodes 's linguistic works on Vietnamese: the influence of Joao Rodrigues 's Japanese grammars.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Missionary Linguistics	6. 最初と最後の頁 189,200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KISHIMOTO, Emi	4. 巻 1
2. 論文標題 Vocabulario da lingua de Iapam and Portuguese dictionaries in the seventeenth century.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Multiplas faces de pesquisa japonesa internacional	6. 最初と最後の頁 45,57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井純, 中尾祥子	4. 巻 81
2. 論文標題 広島大学図書館蔵「いろは韻」2種の掲載漢字と和訓について 聚分韻略・落葉集との比較を含めて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 広島大学文学部論集	6. 最初と最後の頁 1,17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shirai, Jun	4. 巻 1
2. 論文標題 Background and significance of the copy of the Vocabulario discovered in Rio de Janeiro, Brazil	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Multiplas faces de pesquisa japonesa internacional	6. 最初と最後の頁 29, 44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井純	4. 巻 184
2. 論文標題 キリシタン版『落葉集』所収漢字と和訓の常用性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 訓点語と訓点資料	6. 最初と最後の頁 69, 86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野遙	4. 巻 2
2. 論文標題 キリシタン版『サントスの御作業』の「言葉の和らげ」の編纂背景について 巻1・巻2間の偏りに注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 論究日本近代語	6. 最初と最後の頁 1, 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 NAKANO, Haruka	4. 巻 1
2. 論文標題 Context of the “Kun-shaku” (explanation by “Kun” Japanese reading of Kanji) in the Vocabulario da Lingoa de Iapam”	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Multiplas faces de pesquisa japonesa internacional	6. 最初と最後の頁 58, 74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 遙	4. 巻 1
2. 論文標題 表記は『読み』にどうかかわるか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 読まなければなにもはじまらない	6. 最初と最後の頁 110,122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野 遙	4. 巻 1
2. 論文標題 実践編 日葡辞書 日本語・ポルトガル語の対訳辞書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリシタン語学入門	6. 最初と最後の頁 121,129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒川 茉莉, 豊島 正之	4. 巻 1
2. 論文標題 キリシタン時代の文法書	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 キリシタン語学入門	6. 最初と最後の頁 21,26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TOYOSHIMA, Masayuki	4. 巻 1
2. 論文標題 Gramaticas normativas y descriptivas, adaptacion de la influencia iberica por los Jesuitas en Japon	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cruces y Ancoras	6. 最初と最後の頁 149,158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之	4. 巻 1
2. 論文標題 東洋文庫のキリシタン版	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文庫編「岩崎文庫の名品」	6. 最初と最後の頁 132,135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之	4. 巻 38
2. 論文標題 キリシタン版「ラポ日対訳辞書」のポルトガル語綴り字規範に就て	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上智大学国文学科紀要	6. 最初と最後の頁 1,9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井純	4. 巻 18
2. 論文標題 キリシタン版のタイポグラフィー 活字の制作と運用について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北研学刊	6. 最初と最後の頁 15,32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井純	4. 巻 1
2. 論文標題 辞書と文献の比較に基づく定訓論の再検討 キリシタン版『落葉集』と『ぎやどべかどる』を中心として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語文字論の挑戦	6. 最初と最後の頁 152,174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 豊島正之	4. 巻 40
2. 論文標題 キリシタン版日葡辞書の語釈を欠く見出し語に就て	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 上智大学国文学科紀要	6. 最初と最後の頁 244-234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 TOYOSHIMA, Masayuki	4. 巻 1
2. 論文標題 Tradition and innovations in the Jesuit Japanese grammars	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Rolf Kemmler(ed.) “450 anos De institvtione grammatica libri tres”, Nodus Publikationen, 2023	6. 最初と最後の頁 printing
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KUROKAWA, Mari	4. 巻 1
2. 論文標題 Adaptation and Translations to Japanese of Alvares' Latin Grammar	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 olf Kemmler(ed.) “450 anos De institvtione grammatica libri tres”, Nodus Publikationen, 2023	6. 最初と最後の頁 printing
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中野遙	4. 巻 56
2. 論文標題 キリシタン版『日葡辞書』とキリシタン版『サントスの御作業の内抜書』「言葉の和らげ」について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 上智大学国文学論集	6. 最初と最後の頁 80-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 KUROKAWA, Mari (研究協力者)
2. 発表標題 Pray and Wish in Jesuit Japanese Grammars
3. 学会等名 International Symposium "Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe", Leipzig大学 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井純
2. 発表標題 前期国字本『さるばとるむんぢ』の活字について
3. 学会等名 第16回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白井純
2. 発表標題 『羅葡日辞書』の未知語とその特徴について
3. 学会等名 第17回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒川茉莉
2. 発表標題 反実と希求法
3. 学会等名 第16回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒川茉莉
2. 発表標題 マヌエル・パレト自筆本の線の書入れに就いて
3. 学会等名 第17回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KUROKAWA, Mari
2. 発表標題 Pray and Wish in Jesuit Japanese Grammars
3. 学会等名 International Symposium "Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中野遙
2. 発表標題 キリシタン版『日葡辞書』とキリシタン版『サントスの御作業の内抜書』「言葉の和らげ」について
3. 学会等名 第16回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中野遙
2. 発表標題 『サントスの御作業の内抜書』「言葉の和らげ」とパレト写本に見る『日葡辞書』の記述について
3. 学会等名 上智大学国文学会2022年冬季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中野 遼
2. 発表標題 キリシタン版『日葡辞書』内の同一語釈文について
3. 学会等名 第17回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 豊島正之
2. 発表標題 日葡辞書のオ段拗長音 二様の表記は同音異表記である
3. 学会等名 第17回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 豊島正之
2. 発表標題 キリシタン版での「;」の用法
3. 学会等名 キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 豊島正之
2. 発表標題 太平記抜書の版式に就て
3. 学会等名 キリシタン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 伊曾保物語の「ばすとる」(羊飼い) - キリシタン版と国字本をつなぐことば
3. 学会等名 イタリア東方学研究所・フランス国立極東学院 京都支部・京都大学人文科学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 『羅葡日辞書』対訳にみえる単位換算のゆれ
3. 学会等名 第14回キリシタン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 芥川龍之介南蛮物の「上人」
3. 学会等名 第12回京都府立大学国語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 コルディエ 『日本書誌』(Bibliotheca Japonica) について
3. 学会等名 コルディエ文庫研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中野 遼
2. 発表標題 キリシタン版『サントスの御作業の内抜書』「言葉の和らげ」掲載語彙と本篇中の分布について
3. 学会等名 国語語彙史研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野 遼
2. 発表標題 キリシタン版『落葉集』「本篇」の掲出熟語について -キリシタン版『日葡辞書』との対照を中心に
3. 学会等名 キリシタン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中野 遼
2. 発表標題 キリシタン版『日葡辞書』のBup.(仏法語注記)について
3. 学会等名 キリシタン語学研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TOYOSHIMA, Masayuki
2. 発表標題 Explanations vs Definitions in the Early Japanese Missionary Translations
3. 学会等名 Religion, Translation and Transnational Relations: Japan and (Counter-) Reformation Europe (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TOYOSHIMA, Masayuki
2. 発表標題 Tradition and innovations in the Jesuit Japanese grammars
3. 学会等名 450 anos De institvzione grammatica libri tres: a gramatica latino-portuguesa de Manuel Alvares no mundo moderno (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 TOYOSHIMA, Masayuki
2. 発表標題 When a "Round-trip" fails in dictionaries
3. 学会等名 XIII Congresso internacional de Estudos japoneses no Brasil (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 豊島正之
2. 発表標題 キリシタン語学書のポルトガル語綴り字規範に就て
3. 学会等名 キリシタン語学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 『日葡辞書』と17世紀のポルトガル語辞書
3. 学会等名 XIII Congresso internacional de Estudos japoneses no Brasil (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岸本恵実
2. 発表標題 「奉教人の死」「きりしとほろ上人伝」の外来語表記
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会 ISAS第2回研究集会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SHIRAI, Jun
2. 発表標題 Vocabulário da língua de Japam in the Brazilian National Library
3. 学会等名 XIII Congresso internacional de Estudos japoneses no Brasil（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NAKANO, Haruka（研究協力者）
2. 発表標題 KUNSHAKU in the Vocabulário da língua de Japam
3. 学会等名 XIII Congresso internacional de Estudos japoneses no Brasil（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岸本恵実、白井純	4. 発行年 2022年
2. 出版社 八木書店出版部	5. 総ページ数 168
3. 書名 キリシタン語学入門	

1. 著者名 中野 遙(研究協力者)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 八木書店	5. 総ページ数 258
3. 書名 キリシタン版日葡辞書の解明	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	白井 純 (SHIRAI Jun) (20312324)	広島大学・人間社会科学研究科(文)・教授 (15401)	
研究分担者	岸本 恵実 (KISHIMOTO Emi) (50324877)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	中野 遙 (NAKANO Haruka)		
研究協力者	黒川 茉莉 (KUROKAWA Mari)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------